平成 26 年度　鳥取県ＰＴＡ協議会　　教育懇談会（小グループ討議）

Ａグループ

ケータイ・インターネット・マスメディアについて

◎自己紹介･･･一言自慢出来る話を添えて

（１）県教委から説明･･･資料に沿って

○平成 21 年 2 月に教育長から全市町村、全県立学校へ通知する形で「インターネット・ケータイの危険性に関するメッセージ」が出されている

○県内公立小中学校における情報モラル教育の実施状況調査

・授業を実施した学校の割合　H25　小５～中３では７割～９割の学校で実施

・情報モラルに関する研修会を実施した割合　（H25 年保護者対象では小学校では約７割、中学校で８割）

○H25 年度全国学力、学習状況調査においてメディア関係の質問と正答率についてクロス集計

・小学校・中学校ともにＴＶ・ゲームに関わる時間が少ない程正答率が高い

・インターネットについてはある程度関わっている（１時間以内）方が正答率が高い

・携帯・スマートフォンは持っていない方が正答率が高いが、持っていても家庭での約束を守っている児童は正答率が高い

（２）討議

◆ネットパトロールについい

現状　昨年は中学校中心で実施･･･年間１００件以上問題となっている

LINE はネットパトロールでは見つからない。Twitter に転載することで発見できる

参加者意見

・クラスや部活の中でいつも LINE を持っていて会話感覚で使っているが、拡散される可能性を知らずに使っている。

・周りが皆 LINE していると持っていないとつまらない、仲間に入れないといった問題も生じている。

・部活の知らせが LINE を使って送られてくる。

・仮に、スマートフォンを持たせなくても携帯型音楽プレーヤーやゲームでもネット環境が出来るので親も知らないでは済まされないので責任を持って買い与える必要がある。

◆米子市が子どもにケータイ・スマホを持たせない緊急アピールを出したことについて

参加者意見

・正直ムリだと思うという意見が大多数ではあったがこれをきっかけに親子で考えたり話し合ったりする材料になりうる。

・発信する際のインパクトとしては効果があって、これを機に単Ｐや市Ｐでも何か動きだそうという大きなムーブメントになっていけば良いと思う。

・いずれケータイ・スマホを持つ子ども達に「今は持たない」という前提の上でいずれ持つ時の準備として正しい知識を持つことが大事。

県教委から

- ケータイ・インターネット推進委員を養成していきたい（各中学校区に一人位の感じで考えている）
- 韓国では、ネット依存が大きな問題となっておりネット断食なども行われている。
  県ではネット依存調査はまだ未実施だが、中学生が４時間以上ネットしているのは問題であるととらえている。子どもだけの問題ではなく大人の問題としてもとらえていく必要がある。

総括

今の時代、ケータイやスマホを持たずに（持たせずに）生活していくことは難しくなってきている。

小・中学生に持たせる必要はないという前提ではあるが、いずれ持つようになることを見据えて正しい知識を親子そろって身につけおくことは大事。

又、インターネットなどが短時間であったり、ルールを家庭内で作って使用している場合はいいが好きなように使っていたり、又何時間もＴＶやケータイをつついていると学力の低下とも関係が深い点などを考えた場合、持たせた際のルールや使う際のルールも、家庭でしっかり作ってルールを守った上で使っていく（使わせる）ことが大切であり、大人の責任も重いということで肝に命じ、子ども達に買い与えたり、使わせていく必要がある。

Ｂグループ

土曜授業・学力向上について

◎自己紹介（勉強が好きになった頃の話）

- 小学校５年生の頃、担任の先生が野口英世の伝記を持って来られて、全集を全部読み先生に誉められた。そのことで読書が好きになった。また、図工の時に絵を先生に誉められた。その頃に好きになった。
- 教育実習のとき。おかげで今がある。
- 社会人になってから、ＳＥ（ＩＴの時代になるかもしれないと言われた時）が分からなくて必死に勉強した。人の本質等についても勉強した。
- 大学受験前にはすることがあたりまえだと思っていた。「分かった・出来た」の体験で学ぶ意欲が生まれた。
- 中学生の時、「一生懸命すれば良い点を付けてあげる」という先生の言葉がきっかけになり、一生懸命にした。
- サッカーの練習方法を自分自身で考えたことが、好きになったきっかけ。
- 「お前は、何がしたい？」と先生に言われて、自分自身を考えるようになり、意欲がわいた。社会人になって、独学で本を買って覚えた。
- 担任の先生との出会い。ものすごく誉めてもらったこと。
- バトミントン。わかとり国体には出場できなかったが、社会人になり、子どもがバトミントンを始め “一緒になって” からやり直した。（指導者の試験を受けるために頭を使ったのが最近のことである。）
- テストで 100 点を取ったとき。英語で分からなかった事が分かったとき。
- 資格を取るために勉強したとき。（気になると、とことんしたくなる。）

・自由研究を考えていたとき。（子どもと一緒に親も勉強した。）
・海外留学のときの外から見た日本。（子どもに話してあげられること。）
・先生が背中を押してくれたことで目標が出来、勉強する気がわいた。子どもが頑張っている姿を見て自分自身も勉強したいと思った。
・１浪したとき。追い詰められたときに必死になった。
・嫌いじゃなくなったときは、成績がひどかったときに、親に勧められて早起きをして勉強を始めたら、点が良くなり、気持ちが良くなったことがきっかけ。

（１）県教委から説明･･･資料に沿って
・週５日制になったが、授業時間数が増え、教科書も厚くなり、法律も変わったため市町村の判断で土曜授業が出来るようになった。
・県は、土曜授業等の後押しをしている。目的は、土曜日の子ども達の過ごし方を考えてのこと。一番回数が多いところで、月一回程度。県全体で２割弱が実施し、３～５回が多い。
・広い意味での学力を身につけさせたい。（学校の先生の指導だけでなく、広い人材・地域の方々も学習に入っていただいたりする。）
・教員の勤務・振替は、全県同じ。やり方は色々ある。地域に任せているので、ややこしくなっている。（格差・開きが出ている。）県としては、支援や応援程度。
・基本は、市町村の教育委員会に任せている。例えば、平日の学習を土曜日に回すことも出来る。スポ少の県大会などの調整は、県としてもお願いしている。今後も引き続きお願いしていく。

（２）討議
◆土曜授業について
参加者の地域での現状
○倉吉市：中学校では１学期【２回】２学期【２回】３学期【１回】の合計５回。小学校では２学期【２回】３学期【１回】の合計３回行う予定。中学校が今、していることは、地元を回ってみたり、地元の方の話を聞いてみたりしている。（風土記の活用をしている。）
〈倉吉市で土曜授業が始まった経緯〉土曜授業がマスコミ等で紹介されるようになり、倉吉市Ｐ連の教育懇談会で話題として取り上げた。市教委も参加しての会であったが全体として時期尚早という意見が多かった。11 月に市教委が全家庭にアンケートを実施したところ、賛成意見が半数を若干上回ったので実施することになった。
○八頭郡：まだ取りかかっていない。先生方の勤務態勢などが問題視されているが、第１に子どもに対してどうしたいのかを考えたい。（子ども中心の議論になっていない様な気がする。）
○福部：10 年間の一貫校（幼・小・中）。土曜授業は、絶対に先生が指導しなければならないのか。
○日南町：給食もある。町が経営しているので出来る。一番は、学力向上であるという考え方。
○高等学校では、先生方が交代制で実施している。
○小中の先生は、全員が出勤しなければならないので長期休業中に閉庁日を設けて振り替えている。
※土曜日授業の実施についてアンケート等をしたと言うことについて県として把握しているか。
→県としては把握していない。（アンケートの実施等）学校のＨＰ等を見て、どんな活動をしているのか確認してみてほしい。
・倉吉市は、アンケートの結果をＨＰに載せてある。（質問内容も載っている。）

・日野町は、アンケート集約したものを教育委員会に提案していく予定。賛否はある。（土曜日に全く何もしない子どももいるので、預かってくれるので安心という意見もある。）

参加者意見

○生活リズムや学ぶ習慣は、学力にやはり関係している。保護者の後押しが大切。土曜日の可能性（土曜日ならではの活用方法）が出てくるのではないか。

○子ども達の無気力。子ども達に夢や目標がはたしてあるのだろうか。

○日本の中では、学校は“友達作り”。（勉強が一番ではない。）

○ビジネス教育（夢・目標）。地元だけではなく都会での仕事等。“お金”“法律”“ふるさと活性化”“ＩＴ社会の中でリスク教育”→「生きていく上での教育」ではないかとも考えられる。（チャンス）

○ハングリー精神がない。（衣・食・住が足りているので、現状は困っていないのではないか。）ゲームに関しては高い学習能力を持っている。

Ｃグループ

自立（自律）した子どもを育てる家庭教育力について

（１）県教委から説明･･･資料に沿って

○体力、運動能力調査結果について

・鳥取県は、全国と比べボール投げ、長座体前屈では劣っているが、シャトルランでは上回っている。

・小中では下回る種目が多いが、高では多くの種目で上回っている。

・以前と比べると学校での休み時間の遊びが減ってきている

・ソフトドッジボールでは投げる力、受ける力が鍛えにくい

・県では、運動するきっかけづくりを進めているところ。

○学力、学習状況調査の結果について

・将来や進路について子どもと会話する、生活習慣についての働きかけ、早寝、早起き、朝ごはんなど保護者の行動や考え方、子どもの学力との関係

・地域の大人や、子ども同士のかかわりが全国と比べて低い

・小学校低学年では、動植物とのかかわり、高学年では、地域家庭とのかかわり。など体験活動を進めている。

○児童虐待について

・いじめの認知件数、鳥取県は全国に比べ１／４くらいである。

・成長の変わり目（小３）、環境の変わり目（中１）に多い傾向。

（２）討議（主に地域とのかかわりがテーマとなった）

・公民館の行事への参加が少なくなってきている。かかわり方を考える必要がある。

・（公民館行事）失敗しないよう段取りをしすぎ。

・（公民館行事）接待キャンプのようになっている。

・日野では毎年４泊５日キャンプを１０年くらいしている。薪を拾うところから。「地域ファザー、マザー」も

・長期の宿泊体験では、いろんな力が付く。

・伯耆町では、見守り隊等で地域の方がよく協力してくださる。行事が多く、休みが欲しいくらい。
・母親委員会のキャンペーンで、早寝・早起き・朝ごはん。
・以西では、統合のために（スキー教室等）セカンドスクールなくなる。
・境港では、運動会ボランティア、清掃活動をしている。

Ｄグループ

ＰＴＡ活動の活性化について

◆ＰＴＡ活動におけるＰとＴの役割分担や教員の負担軽減について
・各部で資料を作成する、簡単な事務処理のみを先生にお願いするなど、先生の負担軽減に心がけている
・各部の部員が毎年変わるので例年の様子などを知っている先生に頼ることが多い。
・ＰＴＡのＴは教師のこと。日曜のＰＴＡ活動等もＰ（親）同様に積極的に参加してほしい。

◆ＰＴＡと生涯学習について
・生涯学習とは課題や必要に応じて行う自由で広範な学習。
学校、社会での意図的な学習活動だけでなく、スポーツ活動、ボランティア活動など多く含まれる
・地域社会とのかかわりを持つことで、高齢期になった時の孤立を防ぐことにもつながる。
ＰＴＡ活動への参加がその第一歩になるのではないか

◆役員決めについて
・本年度の役員が来年度の適任者に声をかけ立候補してもらっている。それなりの覚悟をもって引き受けている
・６年生保護者から会長、５年生保護者から副会長など決まったメンバーの中から決める
・立候補がなければクジで決めることもある
・クジで決めるのは良くないのではないか

★ＰＴＡ役員の活動を楽しんで行うことが、ＰＴＡの活性化につながるのではないか。

平成26年度　鳥取県ＰＴＡ協議会　教育懇談会（全体討議）

「いじめについて」　いじめ･不登校総合対策センター　センター長　松岡　一氏

【①鳥取県のいじめの実態について】

1　いじめの認知件数の推移

年度		18	19	20	21	22	23	24	25
鳥取県	小学校	35	31	19	11	13	21	131	51
	中学校	74	35	38	25	35	29	144	73

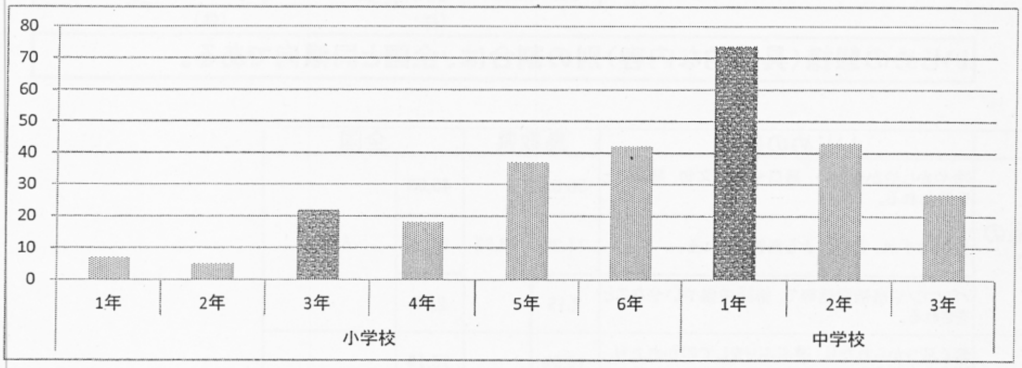
※H25年度は国立、私立を除いた暫定値

千人あたりの件数比較データをみると、全国に比べて鳥取県はおおむね1／5～1／4の状況である。

2　学年別認知件数

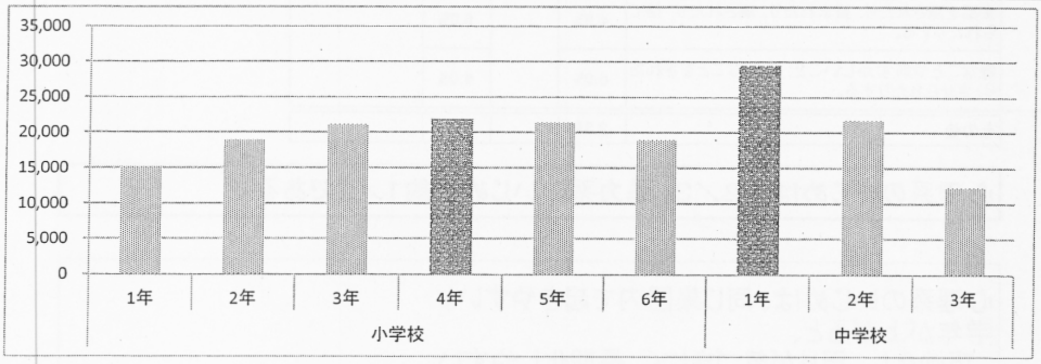
鳥取県

小学校						中学校		
1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
7	5	22	18	37	42	74	43	27



全国

小学校						中学校		
1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
15,026	18,916	21,143	21,897	21,378	19,023	29,524	21,754	12,356



学年別にみると、成長の変わり目（小学校中学年）、環境の変わり目（中学校1年）に増加の傾向がある。

3　いじめの態様

いじめの態様	鳥取県				全国	
	小学校	中学校	計	構成比（全体に占める割合）	小中学校計	構成比（全体に占める割
冷やかしやからかい，悪口や脅し文句，嫌なことを言われる。	99	98	197	50.5%	116,503	45.0%
仲間はずれ，集団による無視をされる。	28	16	44	11.3%	39,211	15.1%
軽くぶつかられたり，遊ぶふりをして叩かれたり，蹴られたりする。	38	28	66	16.9%	38,995	15.1%
ひどくぶつかられたり，叩かれたり，蹴られたりする。	10	3	13	3.3%	15,324	5.9%
金品をたかられる。	2	5	7	1.8%	5,429	2.1%
金品を隠されたり，盗まれたり，壊されたり，捨てられたりする。	10	9	19	4.9%	15,578	6.0%
嫌なことや恥ずかしいこと，危険なことをされたり，させられたりする。	16	11	27	6.9%	15,574	6.0%
パソコンや携帯電話等で，誹謗中傷やいやなことをされる。	0	8	8	2.1%	5,379	2.1%
その他	4	5	9	2.3%	7,061	2.7%
計	207	183	390		259,054	
			（件）		（件）	

いじめの態様（具体的な内容）別の割合は、全国と同傾向である。

	いじめの態様	鳥取県		全国	
心理系のいじめ	冷やかしやからかい，悪口や脅し文句，嫌なことを言われる。	50.5%	63.8%	45.0%	62.2%
	仲間はずれ，集団による無視をされる。	11.3%		15.1%	
	パソコンや携帯電話等で，誹謗中傷やいやなことをされる。	2.1%		2.1%	
暴力系のいじめ	軽くぶつかられたり，遊ぶふりをして叩かれたり，蹴られたりする。	16.9%	33.8%	15.1%	35.1%
	ひどくぶつかられたり，叩かれたり，蹴られたりする。	3.3%		5.9%	
	金品をたかられる。	1.8%		2.1%	
	金品を隠されたり，盗まれたり，壊されたり，捨てられたりする。	4.9%		6.0%	
	嫌なことや恥ずかしいこと，危険なことをされたり，させられたりする。	6.9%		6.0%	
	その他	2.3%		2.7%	

心理系のいじめは約2／3、暴力系のいじめは約1／3である。

心理系のいじめは、同じ集団内で起きやすい。
学年が上がると、
　巧妙化し、周りが気づきにくく、長期化しやすい。
　「親につらい思いをさせたくない」という心理が働くこともある。

【②いじめの事案について児童・生徒を指導する時に苦労する点】

1

これどう思います？

「自分たちの子どもの時にもいじめはあった」

「少しくらいいじめを受けても、かえって強い大人になる」

「いじめられても、やり返すくらいじゃないと･･･」

子どもを取り巻く大人（教師、保護者、地域の大人)の中にはこのような考えの人がいる。

子どもは、このように言われると戸惑う。何か違う気がするけど言い返せない。

このように言う大人とっては事実かもしれないが、他の人には当てはまらないことがある。勝者の論理とも言える。

年配の人の受けたいじめと今の子のいじめは違う。昔は一過性のものが多かったが、今は、目に見えにくく、陰湿化、長期化しており、じわじわとやられていく。

2

（いじめていた生徒の言葉）

「相手がイヤだと言わなかったから、いいと思っていた」

○相手の気持ちを想像する力

○ストレス耐性

中学２年生の自殺後の調査で見えてきたこと

部活動の中で３人の生徒によって、１年間暴力的ないじめを受けていた。

いじめをしていた３人の生徒は、「相手がイヤだと言わなかったから、いいと思っていた」と言っている。やっていることの意味がわかっていない。

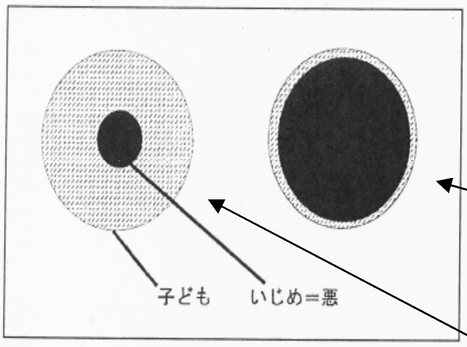
この事例ではないが、専門機関でカウンセリングを受けたところ、小中学生でも２～３歳の成長段階にしか育っていない子どもがいる。愛情を充分に受けていない。

「愛されている」というメッセージを伝えていくことが大切。

ストレスの耐性の低下

今の子どもは、好きな時に好きな食べ物を好きなだけ食べる生活を送っている。我慢することを学んでいないために、ストレスに弱い。

3　親の情、学校の務め



問題が起こった時、次のように言葉をかける。

「何てことをしたんだ」…社会的規範

「どうしてこんなことをしたんだ」…動機、背景

いじめられた保護者にとっていじめた子はこのように見える（存在そのものが悪と思える)。

教員は、このように見ている。

いじめた側の保護者も教員と同じように我が子を見ている。

このギャップが大きすぎて問題解決に支障を来すことがある。問題解決には、教員も保護者も両方の見方が出来ることが必要となってくる。

守るべき規範意識はきちんと教えなくてはならないが、頭ごなしでは心に入っていかない。

平成２６年度教育懇談会　（全体懇談会）　　～ワークショップ形式にて～

■いじめはどうしてなくならないのか

未熟な為

・自分に劣等感がある
・感情をコントロール出来ない幼稚さ
・いじめることが悪いことだと思っていない
・ここまでやったらいじめになるという境界線があいまい
・自分の気持ちを伝えることが出来ない
・いじめについて無知だから
・コミュニケーション不足　　・幼い
・善悪の判断が出来ない　　・人間関係を作れない子が増えた
・承認欲求が満たされていない　　・相手の気持ちを考えていない
・「やめろ」と言えない弱さがある

自尊感情・道徳観

・いじめられた気持ちが、いじめる側には分からない
・相手を思いやる気持ちが持てない
・相手の心を想像する力の不足
・人権意識が希薄
・他人と違うということが認めることが出来ない
・相手を尊敬する心が低い
・いじめることで存在感をもっていたいから
・道徳観の欠落。正義感の欠落
・自分のことを思って欲しい気持ちがうまく表現できない
・本人の心のよりどころがなく、相手をいじめることで心の安定をはかっている
・自分の存在を守ろうとする
・いじめに気づいても周りが見て見ぬふりをする
・人間関係を作れない　　・子どもの心の安定がない
・無関心　・心の弱さ　　・いじめについての認識が低い

■保護者としてＰＴＡとして何ができるか

親として･･･慈愛

・たっぷりの愛情
・あなたが大切な人と伝える
・抱きしめる
・愛されている存在だときちんと伝える
・愛情を持って接する
・子どもとのコミュニケーションの時間を作る

傾聴

・子どもが話したら手を止めて聞く（子どもの目線で）
・子どもと一緒に笑う。泣く
・子どもの気持ちに寄り添う
・不安を共有し、安心感を伝える
・顔を見て話す
・子どもが話しやすい家庭を
・子どもの友だちを知る
・家庭での会話を増やす

道徳観

・人の悪口を言わない
・子どもの模範になる努力をする
・自分がされて嫌なことはしないと伝える
・子ども同士を比べない
・何が正しいかをまず考えることを教える
・悪いことは悪いと教える
・ルールを作り守らせる

・人により同じことに対する感じ方が異なる
・いじめに対して嫌と言えない
・自分を守る為　・助けてほしいと言えない
・周りの子ども達に同調していじめに加わってしまう心の弱さ
・いけないことと強く止めてくれる人が周りにいない
・重大なことととらえていないから　・自分を悪く言うから
・長期化しているから　・言うことをきかないから
・しかえし　・いやな経験の連鎖

グループ心理

・いじめと思っても自分が集団から孤立したくない
・いじめをする側にいないと自分がいじめられるから
・仲間に入らないから
・周りに合わせてしまう傾向
・友だちがしているから
・仲間はずれが怖い
・集団の論理、異質なもの（部分）を排除したい
・自分がやられたくないからそのままにしている。又、仲間に入る
・友だちがいない
・許してしまう雰囲気･･･面倒に関わりたくない
・グループの中で弱者をつくることで、他のメンバーがまとまる

ストレス解消として

・いじめることでストレス発散している（友人関係、学業不振）
・自己中心的な考え方（自分さえ良ければ。ガス抜き）
・憂さ晴らし　・楽しいから
・何かへの不満のはけ口　・自分本位だから

比較

・競争意識。優位にたちたいという意識
・常に上から目線で人を評価する
・人より有利な立場にいたい　・弱者をつくりたい
・他人と優劣をつけたい
・自分よりも低くみることが出来る存在を作っておきたい心理
・他人を気にする（気になる人がいる　）

・キチンと叱る
・親自身がルールを守る
・言葉使いを見直す
・手本をみせる
・親が変わる。親が仲良くする
・おいしいご飯を作る　・家族だんらん
・あたりまえの生活習慣を身につけさせる
・他人の子どもにも目を向ける
・正しいしつけ
・正しい価値観を教える
・子どもの変化に気づく（様子をみる）
・注意できる大人になる
・我が子を認め、褒める
・子どもの気持ちに寄り添い、話しを聞き、一緒に考える
・嫌なことは嫌と言える子どもに育てる
・人を傷つけることは絶対にしてはいけない（親が悲しむ）と教える
・笑顔で過ごす。元気に過ごす

体験

・感動体験をつくる
・自分の体験を伝える
・より多くの体験、異年齢、地域の行事への参加
・スポーツなどストレス解消法を教える
・いじめはかっこわるいと体験させる

命・心を育てる

・命、からだの大切さを教える
・動物を飼う
・読書、読み聞かせ

・強い方がかっこいいと思っている
・人を羨ましく思う感情
・自分を他人と比較する（体格、性格等）
・自分がつらいとき、誰か不幸な人がいる方がいい
・人が２人以上になると差が生まれる（上位に立とうとする）

親・地域・社会

・地域の目が少なくなってきている
・親、社会の話し方がいじめ的かもしれない
・大事にされた経験が少ない
・子どもは親をみて育っている
・善悪の判断を教えられていない
・保護者自体の結びつきが弱くなっている
・家庭環境が不安定　　・親子関係の影響
・親の間にもいじめがある
・基本的生活習慣が身についていない
・価値観の多様化･･･間違った個人主義と権利意識
・世の中が競争社会になっているから
・ストレス社会　　　・大人の規範意識の低さ
・メディアによるグローバル化　　・経済格差への反発
・日頃、親から人の悪口を聞かされている
・昔からあったと思うが陰湿化している･･･社会的問題
・個人を成長させるだけでなく、集団を育てることが足りないから

容認論

・社会のなかでいじめは当然
・社会のしくみがそうなっているから
・“心”についてはやってもきりがない
・面倒くさい（面倒みきれない）
・集団で生活していればいじめは起こる
・今に始まったことではないと思う
・横並びを良しとする文化（出る杭は打たれる）
・弱者と強者はいつの時代にもいる
・人間のこころにそういう意識がある
・いじめと冗談との感情の違い
・好き嫌いがある
・個と和のとらえかた
・あきらめ
・それぞれ個性がある

ＰＴＡとして

・学校行事に参加
・学校や保護者同士の情報収集
・ＰＴＡで調査、親同士で解決できる仕組みつくり
・保護者同士の交流
・ＰＴＡ内ルールつくり（体罰ではない罰･･･ぞうきんがけ等）

地域として

・となりのおばちゃんとして（ななめの関係）をつくっておいて、相談できる体制を
・顔を知り声をかける
・地域・保護者が常に見守っていることを感じさせる

その他

・ニュースを観る
・ニュースの内容について話しをする
・小さな時にケンカをする
・異質を認める
・失敗を許す
・子どもに過度の期待をかけない
・早期に芽を摘む（一度しっかりと叱る）
・いやなことを言っていたら本人に同じことを言う（気持ちが分かる）
・メンタルの強化
・危機回避法を教える
・できるだけ多くの子ども達が活躍出来る場所をつくる
・子ども自身がいじめと向き合う場所を仕掛ける
・子どもだからとあきらめない
・心を揺さぶる番組を増やす（親子愛・友情等）

・子どもが相談出来る場をどうしたら確保できるか考えたい
・被害者をなくす方に尽力すべき

まとめ

「いじめはどうして無くならないか」について考えていただき、それを基に「いじめをなくすために保護者が出来ること、ＰＴＡが出来ることは何か」を考えていただきました。

・親は良いモデル（他人の悪口を子どもの前で言わない）を示し、個性を認め合い､人の気持ちのわかる､命を大切にする心を育てていく
・人間関係の結び方を教える（些細な諍いから仲直りを学ぶ）
・自尊感情を育てる（愛していることを行動や言葉で伝える）
・体験活動を通して感情豊かな子どもに育てる
・生活習慣を整える
・おいしいご飯を作り、失敗しても怒らず、夫婦円満に務めようとする親の力が大切

等様々なご意見をいただきました。

本当に大切なことだと実感していますが、それぞれの家庭は今、大人の多様な価値観、考え方の中で子育てをしており、子どもたちの心身の健やかな成長に必要な良い生活習慣や社会の一員としての規範意識等においても同様の傾向が見られます。そのため、家庭のルールのばらつきが大きく、学校も子どもたちも戸惑うことがあります。

また､子どもたちが､「毎日が楽しいな」､「仲間がいてうれしいな」と思える集団（学校、学級）となるためには、実年齢に見合った心身の発達をしており、自己肯定感のある子どもたちの集まりであることが不可欠であろうと考えます。

そのためには、我々大人が知恵を出し合って、保護者をつないで（孤立させない）一緒に楽しみ、学びながら子育てをしていくことが必要だと思います。

保護者の仲間作りに活用出来る県教委の研修会の講師や進行役の派遣事業があります。活用していきましょう。

※参考・子育て親育ちプログラムファシリテータ（進行役）
　　・家庭教育アドバイザー
　　・子ども読書アドバイザー
　　・ケータイ・インターネット教育推進員

講評　県教委　小中学校課　石田課長

子どもたちを取り巻く状況は、世界的な競争社会ではあるが、大事にすべきことは｢子どもたちの心をどう育てるか！｣だと考える。学力向上においても、心がそれに伴っていないと人間としてしっかりした成長が出来ていかない。そういう中で、いじめも問題も不登校問題も同じことが言えるのではないか。今日この話の中で同いじめ問題に取り組んでいくか考えたが、実はこのことは不登校問題と共通するところが多い。こういうところにも目を広げて積極的に子どもに関わっていただきたい。

特に最近よく感じるのは、子どもの自尊感情をどう育てていくか、ここのところに具体的にどんなアプローチが考えられるのかということ。地域行事に参加したり親子のふれあいを持つ等色々なことが

あると思う。子ども自身が親に愛されているという感情を持たない限り他人や友達に優しい思いや愛情を注ぐことは出来にくい。その経験を肌で感じていないと難しいことではないかと思う。やはり、子どもには事ある毎に「愛してるよ」と言ってもらいたいし、色々な活動を通しながら「愛しているよ」の声かけや抱きしめたりして欲しい。これを積み重ねていくことが子どもの心を育てて行くのではないかと思う。

人間は喜びや悲しみといった感情で生きていると先程も意見が出ていましたが、小さい時の感情が喜びやうれしさの方が大きいのか辛い思いが多い野かで、大人になってからの気持ちの持ちようがずいぶん変わってくることを私たちは知っていなくてはならない。

“いじめは心の傷をつけるということ”これは絶対にやってはいけないということをきちんと教えなくてはならない。物は壊れたら衆理をすればよいが、心の傷はなかなか修復できない。こういうことをきちんと話が出来るかどうかが、いじめをきちんと断ち切って次のステップに向かえるか否かの大きなポイントになる。

子どもたちはいずれ大人になり、親になる。どんな親になっていくのかということも考えながら子育ての一つの視点として考えて欲しい。

今学校は、同年齢・異年齢の絆づくりや安心安全な学校づくり（子どもの居場所づくり）の取り組みを行っており、学校だけではなく家庭と地域と一緒になって取り組んでいくことが大事だと思う。

是非、皆さんのつながりを色々なところで大事にしながら、子どもにかかわりを持っていただき、子どもたちが健やかに育っていくことを学校と一緒になって取り組んでいって欲しい。